美しさを極めた花

花浅葱羽羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
美しさを極めた花

【Ｎコード】
Ｎ７２１８Ｎ

【作者名】
花浅葱羽羅

【あらすじ】
美しさを極めた花は瞬き一つの間に崩れ去ったという。

美しさを極めた花は瞬き一つの間に崩れ去ったという。それは美しきものが長続きしないことの象徴だったのか、後に残されたものには分かることではなかった。

老婆の口から紡がれたその言葉に、幼い少年だった僕は少なからず衝撃を受けた。その頃の僕は美しいものは何時までも美しいままだと思っていたし、成功者は何時までも幸せだと思っていたからだ。幼い僕は老いとか風化とか飽きるなどという事は全く縁が無く、理解も当然の如くに出来ていなかった。言うだけ言って歩み去ったその老婆がその出来事があったすぐ後に死んだのだ、と人に聞いた。

ある程度幼さが抜けた僕は、あの時老婆があんな事を幼い僕に言った理由がさっぱり分からなかった。けど、年老いた今になってようやく、老婆の言った言葉の意味と行動が理解できる気がする。老婆はきっと今の僕のように年老いてから言葉の意味を少しだけ理解できるようになり、自分が全てを理解できる前に死んでしまうので未来のある子供に理解できるようになってほしかったのだ。自分が成し得なかった極みに辿り着いてほしかったのだ。

その話の全てを息子にすると、息子は少し困った顔をしてこう言った。

「きっと、老婆は極みに辿り着いたんだろうね」

僕は息子の皺の目立ってきた困り顔をしばらく見ていた。息子の言葉が理解出来なかったからだ。三十分ほどたって、回転の鈍くなった脳で言葉を理解した瞬間に僕は目を手で覆った。

つまり、美しさを極めた花は瞬き一つをするほど短い間に死んだのだ。

（後書き）

老婆は自分がやり遂げたかった極みに辿り着いてすぐに死んだのです。言い換えれば、死ぬ直前になってようやく辿り着いたのです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7218n/

美しさを極めた花

2010年11月12日01時13分発行